



国際ロータリー 第2780地区 第9グループ  
湯河原ロータリークラブ 週報



イマジン  
ロータリー

2022年7月15日(金) 第2881回例会 形式:対面 天候:雨  
合唱:奉仕の理想

会長 青木 義美 幹事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

青木 義美

今日はとても話したい事とあまり話したくない事の二つをお話しさせていただきます。

とても話したい事は過日、葉さん主催の二胡コンサートがありました。

我々メンバーも何人も聞きに来てくれましたが、大きな会場で聞くのと違い、30人くらいのミニコンサートで目の前での演奏なのでとても迫力ある演奏でした。つい葉さんに「ピャオリヤン」と感想を伝えましたらピンシユクを買いました。その意味は「美しい、とか美人」という意味なんです。セクハラで社会問題になりそうでした。しかしほんとに素晴らしい演奏でした。

さて次はあまり話したくない事です、来週柴崎ガバナー補佐が、来月は佐藤ガバナーが公式訪問と少し気の重いイベントがあります。地区協議会はじめどちらの方も皆さんもお会いしていると思いますが、お二方も歯切れのいいスピーチでこの1年を共にロータリー活動が出来ることに粋を感じております。

ところでちょっと地区対応で私が気になっている事があります。室伏前会長にあまり地区にかみつくなと注意されてますのでお二方がいらしたときはやめますが、今日はどうしてもお話しさせていただきます。というのは今度新しく神谷さんや小倉さんが作ったクラブ名です。皆さんこのクラブ名知ってますか。「かながわDEIクラブ」ですよ。DEIとはロータリーのサブテーマでもある、「D」はダイバーシティー・多様性、「E」はイコール・公平性、「I」はインクルージョン・包み込み、という意味であります。このサブテーマをクラブ名に使っていいものでしょうか。例えば我々が湯河原クラブ名を今年度のジェニファー氏のテーマであるイマージンを使ってイマージンRCという名前にしたら素敵なクラブ名だって誰が言うでしょうか。

まあこれは前年度の田島ガバナーが承認した事であって、今年度は関係ないのですが、私はこの問題については憤りを感じています。

まあ来週、来月私はいい子の会長さんでいますので、一応皆様にはお伝えさせていただきます。ここだけの話にして下さい。

出席報告

会員	23 名	出席率	86.36 %
欠席	4 名	前回の修正出席率	85.71 %
(免除者)	1 名	前々回の修正出席率	77.27 %
ゲスト	1 名	事前メイクアップ	0 名
ビジター	0 名		

ゲスト <sup>なつ</sup>夏 <sup>りょうこん</sup>良根 様(古越龍山東京事務所所長)

幹事報告

ガバナーより

1. 2023年夏出発青少年交換学生募集の件  
今年度は2023年夏出発の青少年交換学生の募集を実施致します。会員の皆様にご案内いただけますよう、よろしくお願い致します。学生の応募締め切りは10月20日(木)、地区委員会への書類の提出締め切りは10月28日(金)必着となっておりますのでご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

連絡事項 なし

スマイルBox

高知尾朝行君

7月14日に仲間が喜寿祝をしてくれました。

葉 維英君

本日、夏さんがお越しいただき卓話をしていただき、ありがとうございます。

葉 維英君

先日、二胡演奏会にご後援、ご協力いただきましておかげ様で盛会になりました、ありがとうございます。



皆様こんにちは。紹興酒最大手・古越龍山東京事務所の所長を務めております、夏良根と申します。今日は葉会員の紹介で、このような機会に恵まれました。よろしく願いいたします。

### 1. 紹興酒とは

日本でも馴染みの紹興酒ですが、詳しいことについて、日本にある中華料理のお店ですら知らないことが多くあります。紹興酒は黄酒(もち米などで醸造されたお酒)の一種で、上海から新幹線で1時間20分程度の距離にある「紹興(浙江省)」という町で作られているお酒です。世界三大古酒(ビール、ワイン、黄酒)のひとつに数えられ、西暦2000年には原産地呼称保護制度の第1号、2005年には地理的表示保護制度にも指定されるなど、国家による保護制度が取り入れられています。そのため、日本でも紹興酒と名乗るお酒は多いですが、実際に「紹興酒」と称するお酒を名乗ることができるのは、紹興にある14の酒蔵だけです。

### 2. 紹興酒の歴史と文化

中国の歴史は5000年といわれますが、お酒の歴史はもっと古く、新石器時代の小黄山遺跡(約9000年前)や河姆渡遺跡(約7000年前)からも陶製の酒器が出土しています。そして約5000年前の農耕文明の進化によって、人々は食料から酒を醸造するための余裕を得て、ここから中国の酒造の歴史が始まります。約4000年前、禹王による「夏王朝」において、酒造りを司る儀狄や杜康(第6代国王)によってその技術が完成し、春秋時代の約2500年前には紹興酒が大衆化していました。「女兒酒(女兒が生まれた際に送られたもち米で酒を醸造し、その甕を埋め、嫁入りの際に甕を掘り出して持たせるとい風習)」などが形成されたのもこの時期とされています。時代が下り、長江・黄河文明が融合し、稲作と麦作が合流した宋の時代(約1000年前)には飛躍的に発展しました。長い歴史上、紹興酒にまつわる文人や作品、伝記が数多く生み出されています。そして近代では、中国近代文学の祖と名高い魯迅を育んだのも紹興という町であり、紹興酒でありました。その作品は中国のみならず日本、世界各地において今も愛読されていることは皆様ご承知の通りです。

### 3. 紹興酒の醸造技術

紹興酒は上質なもち米、小麦と鑑湖水、カラメルを原料としています。古越龍山をはじめとする紹興の酒蔵は、千年間、「古法醸造」の伝統を守っています。この伝統的な製法は無形文化遺産として保護されており、それは天地人(天の時、地の利、人の和)の結晶といえます。

一般的に醸造はお盆前後に始まります。そこで酒薬を作り、9月に麦麴、10月に酒母、11月の立冬から仕込み・発酵に至ります。特に発酵においては、独特な「並行複発酵」という製法で90日間以上発酵させます。そして翌年の立春から上槽、火入れと過ぎ、泥で密封し酒庫に貯蔵されます。そこから数年～数十年間、長期にわたって熟成させることによって、最高に旨い紹興酒ができあがります。

### 4. 紹興酒と日本の関係

元々紹興という町の気候は日本と似ており、その土地で作られるお酒も日本の気候や風土との親和性は高いといえます。そのため紹興酒は日本酒と同様に、日本文化に受け入れられていきました。

とはいえ近代の日本において「紹興酒」と呼ばれるお酒の大半は旧満州や台湾で醸造されたものでした。これは第二次大戦後しばらく中国と日本の間に国交がなかったことも影響していますが、1972年の日中国交正常化以降、日本にも本来の紹興酒が宝酒造によって輸入されるようになります。古越龍山の商品も、当時は名前を変えて輸出されていましたが、1990年からメルシャンによって自社ブランドで輸入販売されるようになりました。

### 5. 古越龍山について

古越龍山は紹興酒最大手、中国酒業協会黄酒分会の理事会が置かれるほどの指導的企業として名高い老舗企業です。中国黄酒業界を代表するブランド「古越龍山」をはじめ、傘下には女兒紅、状元紅、沈永和、鑑湖などの有名ブランドを多数有しており、中国国内最大の黄酒貯蔵量を誇っています。

古越龍山の紹興酒は国賓接待酒指定銘柄として中国外交部より証明書を交付されており、200か国以上の中国大使館や領事館で提供されています。当社は「誠実な人になり、真心を込めて酒を造る」の理念を受け継ぎ、代々伝わる醸造達人と数名の国家級の評酒大師(紹興酒マイスター)が、伝統的な醸造技術と厳格な品質管理のもと、古越龍山製品の風格と高い品質を保っています。そして、中国黄酒業界で唯一の国家級工程技術研究センターを持っており、より良いお酒を求めて、日々研究開発を行っております。

(編集 7月会報担当: 吉村行正/クラブ会報委員会)